

種名 イロハモミジ
万葉時代の呼名 かへるで



詠人 藤原八束

万葉集卷八 一五七一

春日野に時雨ふる見ゆ明日よりは
黄葉挿頭さむ高圓の山

【現代訳】

春日野の方に時雨が降っているようですね。明日あたりからは、高圓の山も色づいて緑の中に黄や紅の絵の具をちりばめたようにきれいになることでしょう

【イロハモミジの解説】 カエデ科カエデ属の落葉高木

日本では、本州以南の平地から標高 1,000m 程度にかけての低山で多く見られる。樹高 15m、幹の直径は 80cm 以上に達する。葉は掌状に深く 5~9 裂する。和名は、この裂片を「いろはにほへと……」と数えたことに由来する。秋(10~12 月)には黄褐色から紅色に紅葉して散る。葉はオオモミジやヤマモミジなどに似るが、本種の葉は一回り小さく、鋸葉が粗く不揃いなところで区別される。花期は春(4~5 月)。花は直径 5~6mm。暗紫色で 5 個の萼片と、黄緑色もしくは紫色を帯びる萼片より小さい 5 個の花弁をもつ。風媒花。果実は翼果、長さ 1.5cm 程度の翼があり、夏から初秋にかけて熟すと風で飛ばされる。